

河川空間のにぎわい創出を目指して ～矢作川かわまちづくり計画（豊田市）～

藤田隼平¹・梶原啓太²・今川貴恵²

¹豊橋河川事務所 工務課 ²同 調査課（〒441-8149 豊橋市中野町字平西1-6）

矢作川でまちと水辺が一体となった魅力ある空間づくりを目指して「矢作川かわまちづくり」が始まった。都心にあって自然豊かな矢作川を魅力ある空間を活用していくとともに、都心と連携したにぎわいづくりを目指している。矢作川かわまちづくり計画の特徴と計画策定にあたっての取り組み、及び、豊橋河川事務所の支援について報告する。

キーワード：矢作川、かわまちづくり、にぎわい

1. はじめに

(1) 矢作川流域の概要

矢作川は、その源を中央アルプス南端の長野県下伊那郡大川入山（標高1,908m）に発し、飯田洞川、名倉川等の支川を合わせ、愛知・岐阜県境の山間部を貫流し、平野部で巴川、乙川を合流し、その後、矢作古川を分派して三河湾に注ぐ、幹川流路延長約118km、流域面積約1,830km²の一級河川である。

その流域は、豊田市、岡崎市をはじめとする8市4町2村からなり、流域の土地利用は、山地等が約78%、水田や畑地等の農地が約19%、宅地等の市街地が約3%となっている。流域には輸送用機械器具製造業を中心として発展した豊田市に代表される全国屈指の製造業地域が広がるなど、矢作川流域は国内における社会・経済・文化の基盤を成している。

(2) 豊田市はどんな街

「クルマのまち」として知られる豊田市は愛知県のほぼ中央に位置し、人口は名古屋市に次いで愛知県下2位、市域の面積は県内で最も広い都市である。木曾山脈（中央アルプス）からつづく三河高原と三河湾へと広がる三河平野の接点に位置する。財政健全度ランキングは全国3位、成長力・民力度ランキングは全国38位など世界をリードするものづくり中枢都市としての顔を持つ一方、市域のおよそ7割を森林が占め、市域を貫くように矢作川が流れる。矢作川周辺の低平地に市街地が形成され、市域の北部から東部は樹林地。また西部から南部にかけては水田や畑地等の農地が広がっているなど、矢作川を軸に豊かな自然に恵まれた都市空間を形成している。

豊田市は、地域の持つ特性を生かし、多様なライフスタイルを選択できる満足度の高い都市としてさらなる成

長を目指している。

矢作川の豊田市区間は、中心市街地とランドマークである豊田スタジアムとの間を流れ、その利活用において最高の立地条件を有している。



図-1 矢作川（豊田市区）

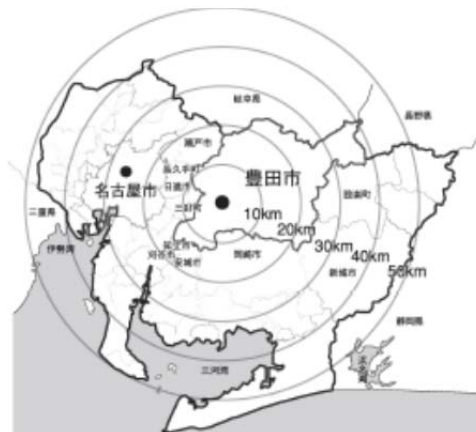


図-2 豊田市の位置

(3) 矢作川の利活用状況

矢作川では 利水者及び自治体等から構成された矢作川沿岸水質保全対策協議会による地域と連携した水質改

善活動や近隣の小学校等により水質保全のための活動が昭和40年～50年代から盛んに行われ、矢作川方式と呼ばれる流域管理システムを確立させたことで知られている。

河川の利用については、渓谷部ではアマゴ釣り、上流から中流にかけてはアユ釣りで賑わい、中下流部では夏祭り等の行祭事や筏下りに利用されているほか、堤防は市民マラソンのコースなどにも利用されている。

中下流部の高水敷では公園やグラウンド等が整備され、スポーツ、散策、レクリエーション等に利用されており、河口部では潮干狩りや釣り等に盛んに利用され、ボードセILING等の水面利用も行われている。

(4) 豊田市民による矢作川の利活用

豊田市では、地元のボランティア（NPO法人矢作川森林塾）が自らの意思で、矢作川の河畔林を保全する活動が行われている。最近では、この活動により得た矢作川の広大な河川敷空間を活用して、「橋の下音楽祭」「トヨタロックフェスティバル」「矢作川感謝祭」などのイベントも行われている。

豊田市では矢作川に愛着と誇りを持ち、意欲的な個人や団体による矢作川の利活用が盛んに行われている。

また、豊田スタジアムでは平成31年ラグビーワールドカップが開催される予定であり、国内はもとより国外からの観光客が期待されている。この機会に矢作川の素晴らしい水辺空間を観光資源として活用したいとの気運が市民に高まっている。



図-3 NPO法人矢作川森林塾の活動



図-4 トヨタロックフェスティバル

2. 豊田のかわまちづくりの取り組み

(1) 矢作川水辺プロジェクト

豊田市は、まちと水辺が一体となった魅力ある空間づくりとその活用を都心と一体となって進めていくため、平成28年度から「矢作川水辺プロジェクト」を始めた。

このプロジェクトは、都心を流れる矢作川「まちかわ」ならではの活用を多様に展開することで、都心に近い水辺の魅力創出・発信を行い、そのための計画として「かわまちづくり計画」を策定するものである。

具体的には矢作川と隣接する都心や豊田スタジアムと連携し回遊性を高めるために必要な「交流空間」、豊かな自然環境を活かした「水辺空間」、多様な世代が多様な楽しみ方を実現する「憩いの空間」を創出し、都心と水辺が一体となった魅力ある空間とそこでの賑わいづくりを推進するためハード・ソフト整備を展開するものである。

また矢作川水辺プロジェクトに先立ち、豊田市では、平成28年度に矢作川の豊かな自然を保全・創出し、良好な河川環境へと導く整備方針として「豊田市矢作川河川環境活性化プラン」を策定した。このプランでは、矢作川を取り巻く自然環境や社会環境の変化に対応し、自然豊かな矢作川を次世代に引き継ぐための「めざす矢作川の姿」を示している。

(2) 矢作川利用調整協議会

豊田市は、かわまちづくり計画を策定にあたり、関係行政機関、市民、民間事業者で構成する「矢作川利用調整協議会」を平成29年3月に設立した。

豊田市の財産である矢作川の水辺空間の魅力づくりや情報の発信、利活用のあり方が議論された。

河川管理者はこの会議に、技術的かつ専門的見地に基づく助言者として参加し、先行優良事例の情報提供とともに、地域のニーズに対応した河川敷地の多様な利用を可能とする「都市・地域再生等利用区域」の指定までの支援、水辺空間、憩いの空間の創出のため、まちづくりと一体となった水辺整備の支援と占用許可にあたっての助言等を行った。



図-5 矢作川利用調整協議会

(3) ミズベリング豊田

水辺空間の利活用については、そのアイデアを得るために、市民ワークショップとしてミズベリング豊田会議が行われた。水辺の利活用への期待や、必要な整備内容について協議を行い、あわせて豊田大橋付近において実証実験を4回行った。

ミズベリング豊田会議では、市民が主体となった河川敷の使い方を参加者で議論し、提案された新たな使い方を実証実験で検証した。実験参加者へのアンケート、ヒアリングにより意見と利用者のニーズを把握し、さらに、河川空間の使い勝手や実践する際の留意点なども検証したうえで、例えばトイレの改善・充実、水辺を感じる空間整備などをかわまちづくり計画に反映した。

水辺での実証実験は、回を重ねるごとに多くの集客が見られ、参加団体の中には実証実験以降も河川敷利用を希望する者も現れている。この一連の活動により矢作川の活用の気運を高めることができた。

第1回ミズベリング豊田会議	H29.8.27
第1回実証実験「ミズベリングクエスト」	H29.9.10
第2回ミズベリング豊田会議	H29.10.21
第2回実証実験「ミズベリングフェスタ」	H29.11.12
第3回実証実験「ドライブインシアター」	H29.11.23
第4回実証実験「サタデーナイトリバー」	H29.11.25

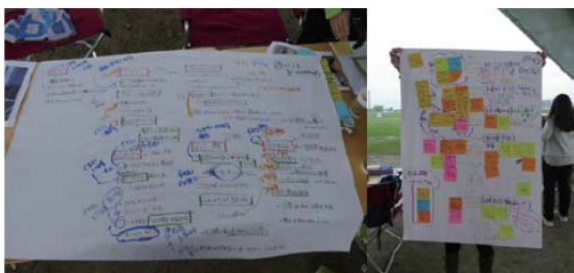


図-6 第2回ミズベリング豊田会議 (2枚)



ミズベリングフェスタ



サタデーナイトリバー

図-7 ミズベリング豊田の実証実験 (2枚)

(4) 矢作川水辺プロジェクトシンポジウム

かわまちづくり計画の紹介と、これまで以上に水辺空間を活用してもらうきっかけづくりとして、**矢作川水辺プロジェクトシンポジウム**を開催した。

このシンポジウムでは、全国の水辺づかいの達人による矢作川水辺空間の使い方を話し合った。また、シンポジウムの参加者に対して、矢作川の水辺空間の利活用のニーズについてアンケート調査を行い、その結果はかわまちづくり計画に反映した。

このシンポジウムの開催およびアンケート調査は豊橋河川事務所が全面的に協力した。

3. 矢作川かわまちづくり計画

(1) 整備箇所の選定

矢作川かわまちづくり計画の実施範囲は、豊田市の玄関口である名鉄三河線「豊田市駅」・愛知環状鉄道線「新豊田駅」の両駅から徒歩20分程度という都心にあつて、清流・矢作川の豊かな自然環境を体感できるエリアを選定した。

矢作川河川敷は、河川協力団体の管理により河畔林が整備・保全され、休息場、散策路として活用されている。休日にはBBQやキャンプなどアウトドア体験や、広い河川空間を活用したイベント（音楽祭など）が開催され賑わいを見せている。また隣接する豊田スタジアムはプロサッカーやラグビーの試合、大型のイベント等が開催されており多くの人でにぎわっている。

一方で、まちと河川の接点が十分でなかったことから、重点的な整備を行うこととなった。



図-8 位置図

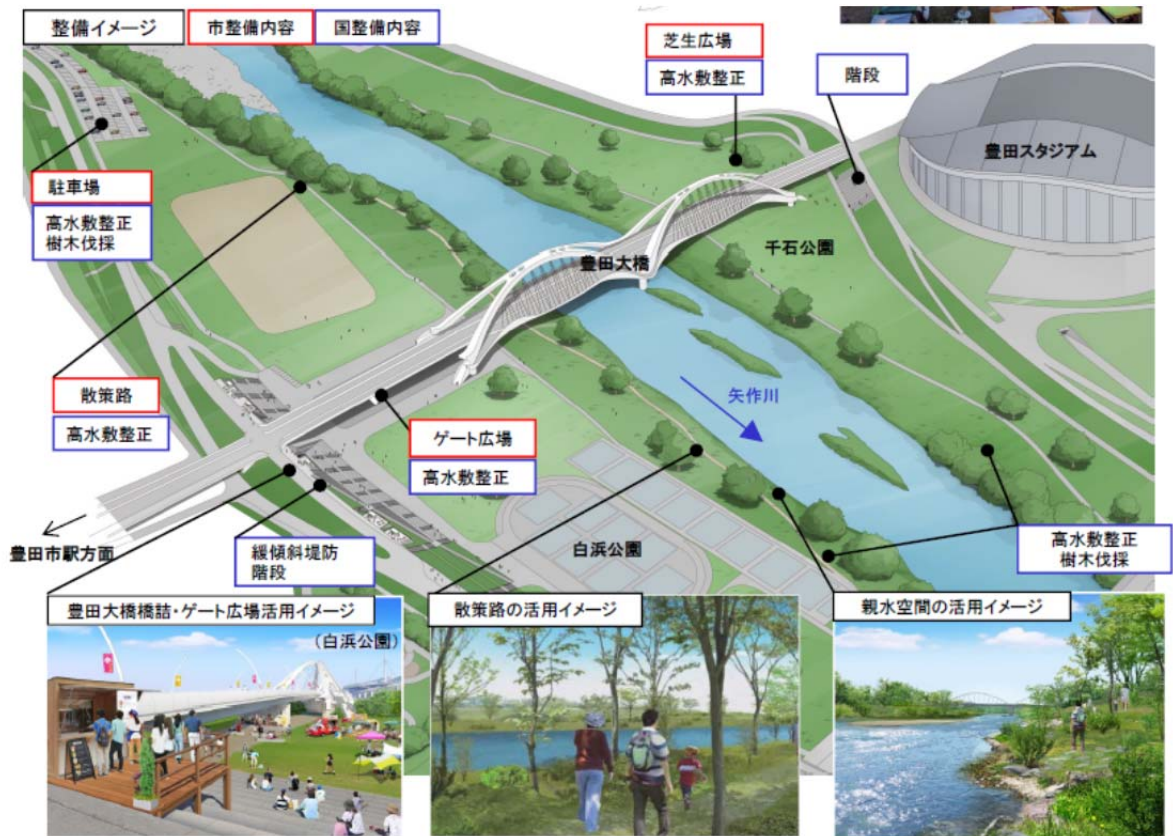


図-9 整備イメージ

(2) かわまちづくりのポイント

矢作川かわまちづくりのポイントは矢作川の環境整備（豊田大橋詰めのゲート広場整備、散策路、親水空間）を行うことで、矢作川と接続する豊田市中心街と豊田スタジアムが一体となった交流空間づくりである。

現状の自然環境、既存計画、ミズベリング豊田の実証実験の成果や矢作川利用調整協議会の意見などをもとにして、整備方針、ゾーニング、動線計画等を検討した。



図-10 豊田大橋・豊田スタジアム付近

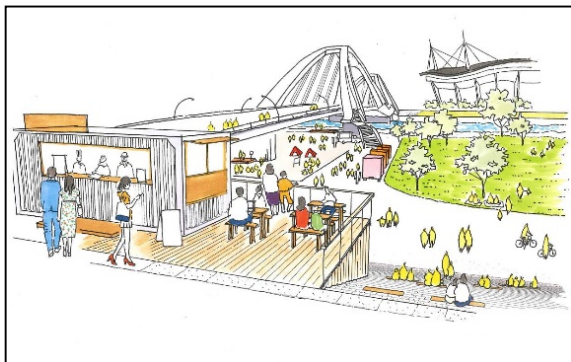


図-11 豊田大橋詰めのゲート広場のイメージ

(3) ソフト施策

ソフト施策については矢作川利用調整委員会と豊田市が連携して展開していくこととしている。具体的には既存のイベントを継続開催しつつ、ハード整備によって新たに創出されるゲート広場等の活用を検討している。

ゲート広場においてはキッチンカーなどによる水辺カフェや水辺オフィス、物販等。また芝生広場や駐車場は日常利用からイベント活用までフレキシブルに活用し、多目的広場は民間事業者によるバーベキュー、デイキャンプ等の利用などを想定している。

このため、河川管理者は豊田市からの要望を踏まえ、河川占用許可準則における特例による「都市・地域再生等利用区域」に指定した。これにより占用主体及び占用施設の規制を緩和して、オープンカフェ、売店等について民間事業者への占用許可が可能となった。



図-12 キッチンカーを使った水辺カフェのイメージ

(4) ハード施策

ハード施策に関して豊橋河川事務所は、必要な治水整備と合わせ、市の意向を反映した施設の基盤整備を行うこととしている。

例えば、①白浜公園側の豊田大橋橋詰において、まちなかからのアクセス性を高め、矢作川の利用をさらに促すために、堤防を緩傾斜化し、階段やスロープを整備する。②白浜公園側の豊田大橋下周辺において駐車場移転および整備を行い、水辺オフィスや水辺カフェなど新しい利用を進める拠点を整備する。③千石公園側において芝生広場、駐車場を整備し、日常・非日常ともにフレキシブルに活用できる広場を整備する。また坂路や散策路の整備も予定している。



図-13 自然景観に配慮した設計の一例
(緩傾斜堤防・階段護岸イメージ)



図-14 水辺の親水性のイメージ

(5) 計画の周知・広報

豊橋河川事務所では、関係者とともに一般住民にもかわまちへの関心を高めハード施策の利活用の促進を図るために、計画リーフレットを作成した。

併せて、豊田ミズベリング会議、実証実験などの様子をまとめたパネルも制作した。

(6) かわまちづくりの効果・期待

矢作川かわまちづくり計画によるソフト施策により、河川での民間事業者の活用が促進することで地域のにぎわいが生まれ、また利活用が増加することで河川愛護活動への啓発・参画促進が進むと期待している。

ハード整備では、河川敷の広場や親水空間としての緩傾斜護岸、管理用通路を活用した散策路などの整備によって、高水敷を幅広い年齢層が安全に利用でき、水辺利活用の拠点となることが期待される。



図-15 高水敷の利活用イメージ

4. 今後の展開

矢作川かわまちづくり計画は平成30年3月26日にかわまちづくり支援制度に登録された。平成30年度からは本格的に活用を展開するために、民間事業者との連携をしながら賑わいづくりを実践していくこととしている。

また、同時に利活用や整備後の維持管理の仕組みやルール等を検討する予定である。

5. おわりに

中心市街地とランドマークである豊田スタジアムの間に流れる矢作川の地理的なメリットを最大限に活かし、まちと水辺が一体となった魅力ある環境づくりは、全国的な事業モデルになり得る。

民間の創意工夫で河川空間を有効に活用できる環境づくりを河川管理者・豊橋河川事務所は市と一っしょになって進めて行きたいと考えている。